

## I 履修方法

### 1 卒業の要件

#### ① 修業年限

修業年限を4年とする。

4年間で卒業の要件に定める単位を修得できない場合は年限を延長することができる。

ただし、在学年数は、休学期間を除いて8年を超えることはできない。

#### ② 卒業までに修得すべき単位数

本学では授業科目を共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目の3つに区分しており、定められた履修方法に従って単位を修得し、この3区分を通して124単位以上を修得しなければならない。また、本学科では科目区分ごとに修得すべき最低単位数を設定している。

卒業単位数	科目区分	単位数	特記事項
124単位以上	共通教育科目	12単位以上	下に掲げる表の外国語科目から、合計8単位以上を含めて修得すること。
	基礎教育科目	81単位以上	
	専門教育科目		

### 外国語科目に関する卒業要件

卒業単位数	科目区分	科目名	単位数	備考
8単位以上	共通教育科目	言語・情報科目群(言語リテラシー科目)	科目による	選択
	基礎教育科目	英語Ⅰ	2	必修
		英語Ⅱ	2	必修
		外国語コミュニケーションⅠ	1	選択
		外国語コミュニケーションⅡ	1	選択
	専門教育科目	外国語活動指導法	2	選択
		外国語活動の指導スキル	1	選択
		教室で使う英語表現(F)※	1	選択

※フォート・ライト・キャンパスだけに開講される2年次後期科目

(注) 1. 学校図書館司書教諭課程科目、図書館司書課程科目の単位を修得した場合、合計で上限20単位まで卒業に必要な単位数に含める。

2. 他大学との単位互換協定に基づき、西宮市大学交流センターにおいて単位を修得した場合、その単位は共通教育科目の単位として認定される。

### 2 取得できる学位 学士(教育学) ※ ( )内は専攻分野

### 3 履修登録単位数の上限(キャップ制)

履修した科目について十分な学修時間を確保し、学修した内容を真に身につけることを目的として、学科ごとに1年間及び1学期間に履修登録できる単位数の上限を年間50単位未満、1学期間25単位以下と定められており<sup>(注1)</sup>、これを「キャップ制」という。上限の単位数を超える履修登録は認められない。ただし、資格課程科目<sup>(注2)</sup>、学外実習科目<sup>(注3)</sup>、単位認定科目(例:西宮市大学共通単位講座等)、再履修科目、卒業非算入科目(卒業要件単位に含まれない科目)

は、キャップ制の対象となる科目に含まれないため、上限単位数を超えて履修登録することができる。

1年間及び1学期間に履修登録できる単位数に上限があるため、1年次から確実に単位を修得していくことが大切である。履修便覧には、卒業までに、どのような科目をどれだけ履修しなければならないか、資格取得に必要な科目や履修に関する注意事項等が記載されている。履修便覧を十分に読み、1年次からしっかりした履修計画を立てて履修登録を行うこと。

なお、2年次以上で履修登録時までの累積GPA<sup>(注4)</sup>が3.00以上の学生は、当該学期については30単位まで履修登録することができる。

(注1) 通年科目は単位数を半分に分割し、学期ごとに加算される。

(注2) 学校図書館司書教諭課程科目、図書館司書課程科目

(注3) 基礎教育科目・専門教育科目の科目形態欄に「外」と表記されている科目のことをいう。

(注4) 累積GPAとは、入学時からの履修登録した科目のうち、卒業非算入科目を除く科目の成績の平均を数値で表したものの。

#### 4 資格課程科目について

共通教育科目や基礎教育科目・専門教育科目とは別に、免許・資格を取得するために必要な講義や実習・演習といった授業科目を資格課程科目として開講している(下の①～②)。

① 学校図書館司書教諭課程科目 239頁参照

② 図書館司書課程科目 241頁参照

## II 共通教育科目・基礎教育科目・専門教育科目

### 1 共通教育科目

共通教育は、歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化が激しい現代社会において的確に判断できる知性及び知識、技能の修得、真摯な学びと実践を通じ、思いやりの心と豊かな感性を持つ自律的な個人の確立を目指している。

さらに、専門教育との有機的な連携に努力し、卒業後、様々な分野で社会をリードする女性を育成することを目的としている。

この目的のために、以下に示された5つの「MW教養コア」について、バランスのとれた学修と研鑽に努力すること。

MW 教 養 コ ア	1	人文、社会、自然の各分野における人間理解に関する広い知識と学ぶ態度の修得
	2	心身の健康のための運動習慣の形成と生命の尊さや倫理に関する知識・態度の向上
	3	ジェンダーの視点の理解と主体的な判断力・行動力の獲得
	4	自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力の育成
	5	異文化を理解し、グローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識の修得

なお、共通教育科目は、年度ごとに一部変更があるので、当年度配布される『共通教育履修ガイドブック』に従って履修すること。

【注意】共通教育科目は再試験を行わない。

#### 共通教育科目の構成

基 礎 教 養 科 目 群	人 文 科 学 科 目	言語、行動、習慣、知恵、思考さらには文学、歴史、芸術、哲学など人間の文化全般について学ぶ。それにより、人間とは何か、人間としていかに生きるべきか、人間の本質を考える力を養う。
	社 会 科 学 科 目	人間は一人ひとりが集まって集団・社会を形成し、その社会生活を営むために必要な生活環境・様式、制度などが作られた。それらの成り立ち・仕組みを学ぶとともにそれらに係る諸問題にも目を向け、よりよい社会を作り上げる力を養う。
	自 然 科 学 科 目	生命や身の回りの自然現象や自然の成り立ち、環境に着目し、その検証結果を整理することで、新たな法則や知見を導き出すプロセスを理解する。また自然観を広げ、真理を追求する上で必要とする客観的な考え方、論理的に展開する基礎を学ぶ。
	国 際 理 解 科 目	諸外国の文化、政治、経済の実情を知り、文化・価値観の多様性を学ぶ。また日本との比較などを通じ、国際協力や国際協調などグローバルな視点で物事・事象を捉える力を養う。
	現 代 ト ピ ッ ク 科 目	今まさに、国内のみならず全世界で話題となっている事象を取り上げ、様々な視点・観点からその概要を知り、考察を深める。
ジ ェ ン ダ ー 科 目 群		男女共同参画時代を迎え、過去から現在に至る性差に関わる諸問題について多面的に学修する。その中で、これまでの伝統的価値観である「女らしさ」「男らしさ」や性別役割分業観を問い直す。
キ ャ リ ア デ ザ イ ン 科 目 群		現在の自分を見つめ、自らの夢を実現するために、今何を学び、いかに自らの能力を伸ばすのかを考える。また社会人として必要なビジネスマナーやコミュニケーションスキルを磨き、企業の仕組みや職業などについての知識を学ぶ。
言 語 ・ 情 報 科 目 群	言 語 リ テ ラ シ ー 科 目	英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、韓国語などの各国語について「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」技能など「言語リテラシー」を修得する。
	情 報 リ テ ラ シ ー 科 目	情報機器を使って、様々な学習活動や社会生活で活用するための知識・技能など「情報リテラシー」を修得する。
健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 目 群	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科 目	健康の概念や健康を保つための知識（栄養・薬・病気の予防など）を学ぶとともに、運動（スポーツ）が心身に及ぼす効果・影響などを科学的に検証することにより、健康な身体を維持する考え方や方法を学ぶ。
	ス ポ ー ツ 実 技 科 目	様々なスポーツ実技を通して、その種目のルールや運動の特性を知り、身体を動かす楽しさや充実感を味わい、生涯にわたってスポーツを楽しむ能力と態度を養う。
大 学 ・ 初 年 次 ゼ ミ	学 び 発 見 ゼ ミ	主体的に学び、関わる力を養う。
単 位 互 換 協 定 科 目		西宮市大学共通単位講座で開講されるテーマについて学ぶ。

## 2 教育学科のカリキュラム

### (1) 教育学科の教育目標

立学の精神と教育推進宣言に則り、教育学科は、平和で民主的な社会の形成者として、新しい時代の要請を視野に入れつつ、教育についての理論と実践を学び、教育や保育の世界に貢献する女性の育成を目標とする。この目標のもと、豊かな人間性と創造的能力を基礎に、高い資質・能力を有し、人間としての優しさを身につけた教育者を育成する。

### (2) 教育学科のカリキュラムの特徴

教育学科は、学生一人ひとりが自らのキャリアプランに則して履修することで、幅広い教養と奥深い専門的知識に基づく思考力や判断力を養い、教育・保育実践のために必要な熱意や責任感、そして技能を身につけることをめざしている。本学科が掲げる教育目標とディプロマ・ポリシーのもと、「小学校教育コース」及び「幼児教育・保育コース」という2つのコースを設け、「コース共通科目」、「基礎教育科目」、「専門教育科目」からなる教育課程を編成する。

「コース共通科目」は、現代の教育・保育を支える幅広い教養的知識を身につけ、的確な判断力を養うとともに、人間性の涵養を図るための科目群である。

「基礎教育科目」は主に1年次に開講され、初期演習を柱として、外国語運用能力や情報処理能力、健康や運動に関する知識や技能など、学士として必ず身につけておかなければならない資質を支える科目群である。また、両コース共通科目として開設され、教育者・保育者になるための基礎となる科目群でもある。

「専門教育科目」は、主に2年次以降に開講され、「小学校教育コース」と「幼児教育・保育コース」に分かれて履修する。小学校教諭あるいは幼稚園教諭としての知識・技能・態度を身につけるため、教育職員免許法に基づいた必修科目である「基礎プログラム」と、一人ひとりの「強み」を育てる選択必修科目である「発展プログラム」を設ける。いずれにおいても、教育に関する基礎理論や教科内容論に関する科目から、教科指導法などの応用的・実践的な科目へ、そして教育・保育実習、教職実践演習というように、適切な順序性をもって開講期を設定する。

「発展プログラム」では、学生自らが「強み」を身につけるために主体的に選択して学べるように、いずれのコースにおいても多彩な選択科目を以下の8つのカテゴリーに分けて開設する。

#### ① 小学校教育コース

〔教育を深く知る〕〔表現力を高める〕〔子どもと科学〕〔子どものからだと運動〕〔国際的な視野をもつ〕〔特別なニーズと支援を知る〕〔乳幼児の教育・保育を知る〕〔子どもの生活と福祉〕41～42頁参照

#### ② 幼児教育・保育コース

〔教育を深く知る〕〔表現力を高める〕〔子どもと科学〕〔子どものからだと運動〕〔国際的な視野をもつ〕〔特別なニーズと支援を知る〕〔小学校教育を知る〕〔子どもの保育と福祉〕43～44頁参照

#### ③ 副免許・資格プログラム

小学校教育コースには「幼稚園教育プログラム」と「特別支援教育プログラム」を、幼児教育・保育コースには「小学校教育プログラム」と「保育士プログラム」を設け、教育

職員免許法・児童福祉法施行規則に基づいた科目を開設する。ただし、各コースで学ぶべきことを適切な順序性を持って学べるように、基礎免許のための必修科目は3年次後期の「教育実習」までに集中的に学び、副免許のための必修科目は3年次後期から4年次にかけて履修できる開講期を設定する。

④ MFWIプログラム

2年次後期には、希望者を対象に、海外の教育を体験的に学び、英語運用能力を高めるMFWI（ムコガワ・フォートライト・インスティテュート）留学プログラムがある。

(3) コースの選択と学修

① コースの選択と科目履修

2年次以降、「小学校教育コース」と「幼児教育・保育コース」に分かれて履修していく。この2つのコースは、学生各自が将来どの校種の教員あるいは保育士になりたいかというプランをもとに学生自身が選択し、教員・保育士としての知識・理解、技能・表現、思考・判断、態度・志向性を身につけるためのものである。教育職員免許法に基づいた必修科目だけでなく、一人ひとりの「強み」を育てる「発展プログラム」も積極的に学ぶよう、履修計画を立ててほしい。1年次の「初期演習」における指導や「基礎教育科目」などの履修を通じて、将来の進路をふまえてのコース選択と免許・資格選択への支援、及び「発展プログラム」の履修指導を行っていくが、自ら積極的に学び考える姿勢が重要である。

なお、同一科目であっても、コースによって異なる学期に開講されており、自分のコースで開講されている学期に履修していくこととなる。特に、聴講・再履修の際には、自分のコースの下級学年の科目を履修することを原則とする。

② 取得できる免許・資格

それぞれのコースにおいて、「基礎プログラム」を履修することによって基礎免許を取得することができる。「基礎プログラム」だけでなく、8つのカテゴリーに分けられた「発展プログラム」を修得することによって、「強み」をもった教員・保育士となることができるよう、科目を設置している。

さらに、副免許・資格のプログラムを履修することによって、副免許・資格を取得することができる。取得できる免許・資格は表1のとおりである。ただし、副免許・資格からは原則として一つを取得することを推奨する。在学中に自分の将来を見据えて焦点を定めしっかりと学ぶという観点から、3種類の免許及び資格を取得するよりも、資質能力を備えた教員・保育士をめざしてほしい。

表1. 取得できる免許・資格

コース	基礎免許	副免許・資格	その他の資格
小学校教育コース	(注1) 小学校教諭一種免許状	幼稚園教諭一種免許状(注1) 特別支援学校教諭一種免許状(注1)	図書館司書資格 学校図書館司書 教諭資格(注3)
幼児教育・保育コース	(注1) 幼稚園教諭一種免許状	小学校教諭一種免許状(注1) 保育士資格(注2)	その他(注4)

(注1) 各教員免許状には、10年の有効期間が付されている。

(注2) 保育士資格には100名の定員がある。

(注3) 学校図書館司書教諭の資格は、小学校教諭免許状を取得することが前提となる。

(注4) その他の免許・資格の取得については、学科担当教員の説明によること。

### ③ 副免許・資格プログラムについて

小学校教育コースにおいて、幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、小学校教育「発展プログラム」の中の「乳幼児の教育・保育を知る」に加えて「幼稚園教育プログラム」を履修していく必要がある。また、特別支援学校教諭一種免許状を取得するためには、小学校教育コースの「発展プログラム」の中の「特別なニーズと支援を知る」に加えて、「特別支援教育プログラム」を履修することになる。

幼児教育・保育コースにおいて、小学校教諭一種免許状を取得するためには、幼児教育「発展プログラム」の中の「小学校教育を知る」に加えて、「小学校教育プログラム」を履修する必要がある。保育士資格取得については、幼児教育「発展プログラム」の中の「子どもの保育と福祉」に加え「保育士プログラム」を履修することになる。

重要なことは、副免許・資格プログラムまで履修することで、各免許・資格の取得が可能になるが、免許・資格を取得しなくとも、それらの領域への理解を深めたい場合には、「発展プログラム」で学ぶことによって、自身の教員としての強みを形成できるということである。

### ④ コースの選択時期

1年次後期に、学科担当教員の指示により、「コース選択届」を提出する。「コース選択届」においては、コースだけでなく、取得予定の免許・資格についても記入する。

保育士資格取得に関しては、厚生労働省によって定められた定員があるので、「コース選択届」提出に先立って、保育士課程履修の希望調査を行い、希望者が定員を超えた場合は選考を行う。保育士資格取得希望の学生は、この結果をもとに、再度コースや取得免許・資格について判断する期間を経て、「コース選択届」を提出することになる。

保育士資格以外の副免許・資格の取得に関しては、定員は設けられていないが、自分にとって本当に必要な免許・資格かどうかを十分に検討した上で、「コース選択届」を提出すること。

### ⑤ コース選択後の履修、及び履修の変更と修得単位の取り扱い

取得希望免許・資格については、学科に「コース選択届」を提出するだけでなく、必要に応じて、各説明会への出席、「課程履修願」の提出などを怠らないように注意すること。取得希望免許・資格の課程履修登録後の変更は、課程履修の辞退以外は認められない。「辞退願」を提出したい場合は、学科担当教員の面談と学科の承認を経ることが必要となる。なお、課程履修を辞退した場合でも、既修の単位はすべて卒業単位に算入できる。

## (4) 免許状・資格の取得について

各免許・資格取得のためには、各コースの「基礎プログラム」・「発展プログラム」の表だけでなく、各免許・資格についての付表及びそれぞれの要件の説明に従って、履修していく必要がある。免許等必修単位欄に示す単位数は、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」（教員免許状）、又は「児童福祉法施行規則」（保育士）にそれぞれ基づいている。この最低単位を充足することによって、教員免許状授与及び保育士資格取得のための要件を満たすことができる。

なお、教職課程・保育士課程の履修を希望する学生は、以下の点に留意すること。

○ 教職課程・保育士課程は、実際に教職に就くことを志望する者が履修する課程である。そのため、教職に就く強い意志を持ち、幅広い資質能力と体力を養成しておくこと。

また、在学中は課程履修に留まらずボランティアなどの現場体験が望まれる。

○ 教職課程・保育士課程の履修に伴う説明会・ガイダンス等には、必ず出席し、提出物・

手続きの期限は守ること。実施・提出期限の告示は掲示で行うので、各自、確認して日程調整すること。説明会・ガイダンスに無断で欠席する、及び提出物や手続きの期日に無断で遅延すると、卒業までに免許状の取得ができなくなることがあるので注意すること。

- 教職課程・保育士課程履修者は、課程を履修している間、『教職ファイル』を作成しなければならない。作成を通じて課題を明確にし、各自、学習していくこと。
  - 学生自身が卒業年次前期の履修登録期間までに卒業要件及び教員免許状取得要件に基づき、必要単位の取得状況を確認し、卒業時に教員免許状が取得できるよう履修計画を立てること。
  - 教育実習・保育実習は、受入校の協力があってこそ成り立つことを自覚し、積極的かつ謙虚に取り組むこと。特に、教育実習・保育実習中に一般就職のための活動を行うことはできない。
- ① 教員免許状取得について

以下の (a) (b) すべての要件を満たすこと

(a) 基礎資格を満たすこと。

(b) 必要単位の修得については40～48頁及び表2の法定単位数を参照し、小学校教諭一種免許状（以下 小一種免と呼ぶ）、幼稚園教諭一種免許状（以下 幼一種免と呼ぶ）、そして特別支援学校教諭一種免許状（以下 特支一種免と呼ぶ）におけるそれぞれの必修・選択区分に注意すること。

表2. 免許状の種類と基礎資格及び法定単位数

免許状の種類	(a)基礎資格	(b)法定単位数								
		教職基礎科目				教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	特別支援に関する科目	介護等体験
		日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	情報機器の操作					
小学校教諭一種免許状	本学卒業の要件を満たすこと	2	2	2	2	8	41 <sup>(注1)</sup>	10	—	要
幼稚園教諭一種免許状	本学卒業の要件を満たすこと	2	2	2	2	6	35 <sup>(注2)</sup>	10	—	不要
特別支援学校教諭一種免許状 (知的障害者・肢体不自由者・病弱者)	本学卒業の要件を満たし小中高又は幼の教員免許取得	—	—	—	—	—	—	—	26 <sup>(注3)</sup>	不要

(注1) 小一種免の教職に関する科目として必要な単位は、本学では43単位である。

(注2) 幼一種免の教職に関する科目として必要な単位は、本学では37単位である。

(注3) 特支一種免の特別支援教育に関する科目として必要な単位は、本学では27単位である。

〈1〉 小学校教諭一種免許状取得について

小一種免を取得するには、次の (a)～(c) の要件を満たすこと。

(a) 卒業要件を満たすこと

(b) 次の(ア)～(ウ)の所要単位の修得すること

(ア) 「基礎教育科目」の小的科目(8単位)を修得すること(免許法施行規則第66条の6)。

なお、副免許として幼一種免を同時に取得する場合に、一度修得した「教職基礎科目」(表2参照)の単位は、両方の免許の単位として有効である。

(イ) 「基礎教育科目」及び「専門教育科目」の免許等必修単位欄の「小学校」に指定する単位を以下のとおり修得すること。

・「教科に関する科目」…(小)の中から 8単位以上

・「教職に関する科目」…小一種免必修を満たして 43単位以上

なお、副免許として幼一種免を同時に取得する場合には、小・幼いずれの免許でも必要とされている科目の単位は一度修得すれば両方の免許の単位として有効である。

〔備考〕

- ・小学校教育コースでは小一種免を基礎免許として取得するので、「教育実習指導Ⅰ（小）」「教育実習Ⅰ（小）」を履修しなければならない。
- ・幼児教育・保育コースでは小一種免を副免許として取得するので、「教育実習指導Ⅱ（小）」を履修しなければならない。

(㉞) 教科又は教職に関する科目として、上記(イ)の最低修得単位を超えて履修した「専門教育科目」の（小）の科目と\*の科目及び「外国語活動指導法」を併せて10単位以上修得すること。

(c) 介護等体験（小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律）を行うこと。

小学校及び中学校教諭の普通免許状取得のための要件として所定の単位の修得以外に、法令により、介護等体験が義務づけられている（特別支援学校及び社会福祉施設で7日間以上）。教員免許状授与申請書には、「介護等体験終了証明書」を添付しなければならない。体験のためのスケジュールについては、*Student Guide*を参照のこと。

なお、既に小・中・特支の教員免許状を授与されている場合、看護師・保健師・社会福祉士・介護福祉士等の免許や資格を有する場合、体験者自身が1級から6級の身体障害者として認定されている場合は、介護等体験を行う必要はない。

〈2〉 幼稚園教諭一種免許状取得について

幼一種免を取得するには、次の(a)(b)の要件を満たすこと。

(a) 卒業要件を満たすこと

(b) 次の(ア)~(ウ)の所要単位を修得すること

(ア) 「基礎教育科目」の幼の科目(8単位)を修得すること(免許法施行規則第66条の6)。

なお、副免許として小一種免を同時に取得する場合には、一度修得した「教職基礎科目」(表2参照)の単位は、両方の免許の単位として有効である。

(イ) 「基礎教育科目」・「専門教育科目」の免許等必修単位欄の「幼稚園」に指定する単位を以下のとおり修得すること。

・「教科に関する科目」…(幼)の中から 6単位以上

・「教職に関する科目」…幼一種免必修を満たして 37単位以上

なお、副免許として小一種免を同時に取得する場合には、小・幼いずれの免許でも必要とされている科目の単位は一度修得すれば両方の免許の単位として有効である。

〔備考〕

- ・幼児教育・保育コースでは幼一種免を基礎免許として取得するので、「教育実習指導Ⅰ（幼）」「教育実習Ⅰ（幼）」を履修しなければならない。
- ・小学校教育コースでは幼一種免を副免許として取得するので、「教育実習指導Ⅱ（幼）」を履修しなければならない。

(㉞) 教科又は教職に関する科目として、上記(イ)の最低修得単位を超えて履修した「専門教育科目」の（幼）の科目と\*の科目を併せて10単位以上を修得すること。

〈3〉 特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）取得について

特支一種免を取得するには、次の(a)~(c)の要件を満たすこと。

(a) 卒業要件を満たすこと。

- (b) 小一種免の課程を修了すること。  
(c) 「専門教育科目」の免許等必修単位欄「特別支援学校」に指定する単位を以下の通り修得すること。

・特別支援教育に関する科目…特支免必修を満たして27単位以上

〔備考〕

- ・「知的障害教育総論」「肢体不自由教育総論」「病弱教育総論」の中から1科目（2単位）、「重複障害等教育総論」「LD等教育総論」の中から1科目（2単位）を修得しなければならない。

注〈1〉～〈3〉の教員免許状授与申請手続きについては「免許・資格」ページを参照のこと。

② 保育士資格取得について

保育士資格を取得するには、次の(a)(b)の要件を満たすこと。

(a) 卒業要件を満たすこと。

(b) 「基礎教育科目」及び「専門教育科目」の免許等必修単位欄「保育士」に指定する単位を以下のとおり計78単位以上修得すること。

(ア) 保育士教養科目として、10単位以上修得すること。

- ・「基礎教育科目」にある「体育Ⅰ（講義）」（1単位）・「体育Ⅱ（実技）」（1単位）の計2単位を必修とする。  
・「基礎教育科目」の【保】のマークで示された「英語Ⅰ」（2単位）・「英語Ⅱ」（2単位）・「外国語コミュニケーションⅠ」（1単位）・「外国語コミュニケーションⅡ」（1単位）の中から2単位以上。  
・「基礎教育科目」・「専門教育科目」の【保】のマークで示された「日本国憲法」（2単位）・「教育とICT」（2単位）・「外国語活動指導法」（2単位）・「教育プログラミング」（2単位）・「障害児の発達教育論」（2単位）のうちから6単位以上。

(イ) その他の科目

- ・上記(ア)で修得する単位のほかに、「専門教育科目」のうちから保の科目を62単位、及び（保）の科目の中から6単位以上を修得しなければならない。

③ 「学校図書館司書教諭」の資格取得については「免許・資格」ページを参照

④ 「図書館司書」の資格取得については「免許・資格」ページを参照

(5) 科目履修上の注意

① 「教育演習」・「卒業研究」の履修について

3年次開講の「教育演習」（通称3ゼミ）、4年次開講の「卒業研究」（通称4ゼミ）については、希望調査を行った上で担当教員を決定するが、詳細については別途指示する。

② 「教科器楽基礎」・「伴奏法と弾き歌い」・「アンサンブルと弾き歌い」の履修について

「教科器楽基礎」・「伴奏法と弾き歌い」・「アンサンブルと弾き歌い」に関しては、1期に1科目のみ受講できる。そして、「教科器楽基礎」、「伴奏法と弾き歌い」、「アンサンブルと弾き歌い」の順序で履修しなければならない。すなわち、「教科器楽基礎」が不合格の者は、「教科器楽基礎」を再履修して合格しない限り、「伴奏法と弾き歌い」を履修できない。したがって、時間割で「伴奏法と弾き歌い」の時間に「教科器楽基礎」を再履修することになる。以上のことに関しては科目担当教員の指示を受けること。

③ 「教育ボランティア活動」単位について

在学中は課程履修に留まらず、ボランティアなどの現場体験が有用である。

卒業要件非算入の単位として、本学科では「ボランティア活動」に加えて、「教育ボランティア活動」を設定している。小学校・幼稚園・特別支援学校・保育所・施設等でのボランティア活動30時間に対して1単位を認定し、各年度4単位、卒業までの期間で16単位を上限として認定する。詳細な認定方法については、別途指示する。

(6) 学外実習科目の履修について

学外実習に行く前に次の①・②に示す履修要件及び実施条件を満たさなければならない。  
履修可否については大学が判定を行い、その結果は学科より通知する。

① 履修要件

- (a) 教職(又は保育士職)に就く強い意志を持ち、幅広い資質能力と体力を有していること。
- (b) 学外実習に行く前年度末までに所定の科目の単位を修得し、学科の定める要件を満たしていること。教育学科の定める要件は表3、表4のとおりである。

② 実施条件

- (a) 小児期の定期予防接種が終わっていない学生は、医療機関と相談の上、未接種のワクチン接種を受けておくこと。なお、実習に際しては、実習先の求めに応じ、大学が特定の感染症のワクチン接種を指示することがある。
- (b) 学校教育センターが実施する「実習履修説明会」のすべてを受講していること。

表3. 小学校教育コース

学外実習科目	教育実習Ⅰ(小)	教育実習Ⅱ(幼)	特別支援学校教育実習
履修要件	「教育実習指導Ⅰ(小)」を履修中又は修得していること	「教育実習指導Ⅱ(幼)」を履修中又は修得していること 「教育実習Ⅰ(小)」の単位を修得していること	「教育実習Ⅰ(小)」の単位を修得していること
	基礎教育科目を実習に行く前年度末までに7単位以上修得していること	基礎教育科目を実習に行く前年度末までに10単位以上修得していること	基礎教育科目を実習に行く前年度末までに10単位以上修得していること
	専門教育科目を実習に行く前年度末までに35単位以上修得していること	専門教育科目を実習に行く前年度末までに54単位以上修得していること	専門教育科目を実習に行く前年度末までに54単位以上修得していること
判定時期	3年次4月	4年次4月	3年次3月

表4. 幼児教育・保育コース

学外実習科目	教育実習Ⅰ(幼)	教育実習Ⅱ(小)	保育実習Ⅰ(保育所) 保育実習Ⅰ(施設)	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅲ
履修要件	「教育実習指導Ⅰ(幼)」を履修中又は修得していること	「教育実習指導Ⅱ(小)」を履修中又は修得していること 「教育実習Ⅰ(幼)」の単位を修得していること	「保育実習指導ⅠA」を修得し、かつ「保育実習指導ⅠB」を履修中又は修得していること	「保育実習指導Ⅱ」を履修中又は修得していること 「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅰ(施設)」「保育実習指導ⅠB」の単位を修得していること	「保育実習指導Ⅲ」を履修中又は修得していること 「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅰ(施設)」「保育実習指導ⅠB」の単位を修得していること
	基礎教育科目を実習に行く前年度末までに7単位以上修得していること	基礎教育科目を実習に行く前年度末までに10単位以上修得していること	基礎教育科目を実習に行く前年度末までに7単位以上修得していること	基礎教育科目を実習に行く前年度末までに10単位以上修得していること	基礎教育科目を実習に行く前年度末までに10単位以上修得していること
	専門教育科目を実習に行く前年度末までに33単位以上修得していること	専門教育科目を実習に行く前年度末までに54単位以上修得していること	専門教育科目を実習に行く前年度末までに33単位以上修得していること。このうち、2年後期までに開講されている保育士必修科目のうち13単位以上を含めること	専門教育科目を実習に行く前年度末までに54単位以上修得していること。このうち、3年後期までに開講されている保育士必修科目のうち29単位以上を含めること	専門教育科目を実習に行く前年度末までに54単位以上修得していること。このうち、3年後期までに開講されている保育士必修科目のうち29単位以上を含めること
判定時期	3年次4月	4年次4月	3年次4月	4年次4月	4年次4月

【備考】当該科目に開講期の変更などがある場合は、履修要件を満たすための最低必修単位を増減する。

(7) 「教職実践演習（小）A・B」及び「保育・教職実践演習（幼）」の履修について

① 小学校教育コースの「教職実践演習（小）A」の履修要件

※「教職実践演習（小）A」の履修までに、「教育実習Ⅰ（小）」の履修要件を満たしていること。

② 小学校教育コースの「教職実践演習（小）B」の履修要件

※「教職実践演習（小）B」の履修までに、「教職実践演習（小）A」を履修中又は単位を修得していること。

③ 幼児教育・保育コースの「保育・教職実践演習（幼）」の履修要件

※「保育・教職実践演習（幼）」の履修までに次の(a)、(b)いずれかを満たしていること。

(a)「教育実習Ⅰ（幼）」の履修要件を満たしていること。

(b)「保育実習Ⅰ（保育所）」・「保育実習Ⅰ（施設）」の履修要件を満たしていること。



英字④分類	数字②分類	数字③分類	数字④開講期			
K	1	幼児教育基礎プログラム	0・1 教科に関する科目 (幼)	奇数番号：前期・通年 偶数番号：後期・特別学期		
			2・3 教職に関する科目 (幼)			
			4・5 教科又は教職に関する科目 (幼)			
			6・7 その他の科目			
			8 外国語関係科目			
			9 学外実習科目			
			2		幼児教育発展プログラム	2・3 教職に関する科目 (幼)
						4・5 教科又は教職に関する科目 (幼)
						6・7 その他の科目
	3	小学校教育プログラム	8 外国語関係科目			
			9 学外実習科目			
			1 教科に関する科目 (小)			
	5	保育士プログラム	2・3 教職に関する科目 (小)			
			4・5 教科又は教職に関する科目 (小)			
			9 学外実習科目			
			2・3 保育士資格に関する必修科目			
4 保育士資格に関する選択必修科目						
9 学外実習科目						

#### イ 科目形態欄について

科目形態欄の科目形態は下記の意味を示す。

実	実験・実習・実技科目
外	学外実習科目
論	論文・研究等

#### ウ 科目必修欄について

必	必修科目 (この科目の単位を修得しなければ卒業できない)
---	------------------------------

#### エ 資格欄について

表中、資格欄の記号は下記の意味を示す。

小	小学校教諭一種免許状取得のための必修科目
幼	幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目
特	特別支援学校教諭一種免許状 (知・肢・病) 取得のための必修科目
保	保育士資格取得のための必修科目
(小)	小学校教諭一種免許状取得のための選択必修科目
(幼)	幼稚園教諭一種免許状取得のための選択必修科目
(特)	特別支援学校教諭一種免許状取得のための選択必修科目
【保】	保育士資格取得のための選択必修科目 (「教養科目」)
(保)	保育士資格取得のための選択必修科目 (「専門科目」)
*	「教科又は教職に関する科目」に含めることができる科目

#### オ 開講期について

表中の各年次、前・後・特別学期欄の下記印はその学期に開講されることを表す。ただし、不規則な開講となる場合がある。また、開講科目、開講期については変更されることがある。

○	週1回開講
◎	週2回又は週1回2時限連続開講
C	中央キャンパスだけに開講される2年次後期科目
F	フォート・ライト・キャンパスだけに開講される2年次後期科目





		科目番号	科目名称	単位	形態	免許等必修単位			第1年次			第2年次			第3年次			第4年次			
						小学校	幼稚園	特別支援学校	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	
専門教育科目	発展プログラム	18UEDE3261	肢体不自由者の心理・生理・病理	2				特							○						
		18UEDE2265	病弱者の心理・生理・病理	2				特				○									
		18UEDE3250	通常学級での個別支援	2		*	*									○					
		18UEDE4261	L D 等 教育 総 論	2				(特)											○		
	乳幼児の教育・保育を知る	18UEDE3263	保育・教育課程総論	2				幼							○						
		18UEDE4263	保育指導法(遊びと指導)	2				幼											○		
		18UEDE4265	保育指導法(保育と環境)	2				幼											○		
	子どもの生活と福祉	18UEDE2258	調理と裁縫の生活スキル	1			*						○	○							
		18UEDE2267	社会的養護	2									○								
		18UEDE3274	家庭支援論	2												○					

# MFWI留学生対象の集中講義

\* 受講人数の制限を行うため、履修できないことがある。

## 科目一覧表(2)

		科目番号	科目名称	単位	形態	免許等必修単位			第1年次			第2年次			第3年次			第4年次		
						小学校	幼稚園	特別支援学校	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期
専門教育科目	幼稚園教育プログラム	18UEDE3321	保育内容・健康	2			幼								○					
		18UEDE3322	保育内容・環境	2			幼								○					
		18UEDE3324	保育内容・人間関係	2			幼								○					
		18UEDE2321	保育内容・言葉	2			幼					○								
		18UEDE2323	保育内容・表現 I	1			幼					○								
		18UEDE2322	保育内容・表現 II	1			幼						○	○	#					
		18UEDE4321	教育実習指導 II (幼)	1			幼												○	○
		18UEDE4392	教育実習 II (幼)	2	外		*													○

・副免許として幼稚園教諭一種免許状を取得するには、科目一覧表(2)の科目に加えて、科目一覧表(1)中の幼稚園教諭免許に関する必修科目及び選択必修科目の単位を修得する必要がある。

詳しくは34頁の「幼稚園教諭一種免許状取得について」を熟読すること。

# MFWI留学生対象の集中講義

## 科目一覧表(3)

		科目番号	科目名称	単位	形態	免許等必修単位			第1年次			第2年次			第3年次			第4年次			
						小学校	幼稚園	特別支援学校	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	
専門教育科目	特別支援教育プログラム	18UEDE3421	特別支援教職論	2				特							○						
		18UEDE3423	知的障害教育	2				特							○						
		18UEDE3425	障害児指導法	2				特							○						
		18UEDE3422	肢体不自由教育	2				特								○					
		18UEDE3424	病弱者教育	2				特								○					
		18UEDE4440	知的障害教育総論	2				(特)												○	
		18UEDE4441	肢体不自由教育総論	2				(特)											○		
		18UEDE4442	病弱者教育総論	2				(特)												○	
		18UEDE3427	視覚障害教育総論	2				特							○						
		18UEDE3426	聴覚障害教育総論	2				特								○					
		18UEDE4451	重複障害等教育総論	2				(特)												○	
		18UEDE4421	特別支援学校教育実習指導	1				特												○	(○)
		18UEDE4491	特別支援学校教育実習	2	外			特												○	(○)

・副免許として特別支援学校教諭一種免許状を取得するには、科目一覧表(3)の科目に加えて、科目一覧表(1)中の特別支援学校教諭免許に関する必修科目及び選択必修科目の単位を修得する必要がある。

詳しくは34・35頁の「特別支援学校教諭一種免許状取得について」を熟読すること。

幼児教育・保育コース

科目一覧表(1)

		科目番号	科目名称	単位	形態	免許等必修			第1年次			第2年次			第3年次			第4年次		
						幼稚園	保育士	小学校	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期
基礎プログラム		18UEDK2114	教 科 音 楽	1		(幼)	(保)	(小)					○							
		18UEDK2113	教 科 体 育	1		(幼)	保	(小)					○							
		18UEDK2121	保育・教育課程総論	2		幼	保						○							
		18UEDK2123	教 育 方 法 論	2		幼		小					○							
		18UEDK2181	外国語活動指導法	2			【保】	小					○							
		18UEDK2125	保育指導法(遊びと指導)	2		幼	(保)						○							
		18UEDK3121	保育指導法(保育と環境)	2		幼	(保)								○					
		18UEDK3123	保育内容・健康	2		幼	保								○					
		18UEDK3125	保育内容・環境	2		幼	保								○					
		18UEDK3127	保育内容・人間関係	2		幼	保								○					
		18UEDK2127	保育内容・言葉	2		幼	保						○							
		18UEDK2129	保育内容・表現Ⅰ	1		幼	保						○							
		18UEDK2122	保育内容・表現Ⅱ	1		幼	(保)						○	○#						
		18UEDK3130	教育相談の理論と方法	2		幼		小								○				
		18UEDK2142	総合学習論	2		*		*						○	○					
		18UEDK2192	学校教育参加実習	1	外										○*					
		18UEDK3129	教育実習指導Ⅰ(幼)	1		幼										○	○			
		18UEDK3192	教育実習Ⅰ(幼)	4	外	幼		小								○				
		18UEDK4122	保育・教職実践演習(幼)	2		幼	保	小												◎
	専門教育科目	教育を深く知る	18UEDK2241	教 育 社 会 学	2		*		*					○						
18UEDK2242			教 育 哲 学	2		*		*						○	○					
18UEDK2243			教育思想の歴史	2		*		*						○						
18UEDK2244			人権教育と福祉の研究	2		*	(保)	*						○						
18UEDK2246			子ども理解と幼児教育	2		*								○						
18UEDK3241			学級担任論(幼)	2		*										○				
18UEDK3242			幼児教育実践演習	1		*											○			
表現力を高める		18UEDK2248	子どもと文学	1		*		*						○	○					
		18UEDK4241	指導音楽実践	1		*		*												○
		18UEDK2245	伴奏法と弾き歌い	1		*	保	*						○						
		18UEDK2254	アンサンブルと弾き歌い	1		*	(保)							○	○					
		18UEDK2250	感性を育む造形表現の展開	1		*	(保)	*						○						
		18UEDK3243	身体表現	1		*	(保)	*								○				
子どもと科学		18UEDK3260	ことばと表現	1			保										○			
		18UEDK2252	子どもと数学	1		*		*						○	○					
		18UEDK3262	理科教育の実践研究	1				*									○			
		18UEDK2262	調理と裁縫の生活スキル	1				*						○	○					
		18UEDK3246	教育調査法	1		*		*									○			
子どものからだと運動		18UEDK4244	教育プログラミング	2		*	【保】	*												○
		18UEDK4243	運動遊び演習	1		*														○
国際的な視野をもつ		18UEDK3248	子どもの安全と保健	1		*		*									○			
		18UEDK2279	海外教育参加実習指導	1										○						
		18UEDK2264	世界の子どもたち	1				*						○	○					
		18UEDK2266	異文化理解とコミュニケーション	2										○						
		18UEDK2282	教室で使う英語表現	1										○	○					
		18UEDK2292	海外教育参加実習	1	外									○	○					
特別なニーズと支援を知る		18UEDK3281	外国語活動の指導スキル	1				*									○			
		18UEDK2261	障害児福祉論	2										○						
		18UEDK2263	知的障害者の心理・生理・病理	2										○						
		18UEDK3261	肢体不自由者の心理・生理・病理	2										○						
		18UEDK2265	病弱者の心理・生理・病理	2										○						
		18UEDK3250	通常学級での個別支援	2		*		*									○			
小学校教育を知る	18UEDK4261	L D 等 教 育 総 論	2																○	
	18UEDK3263	教育課程総論(小)	2				小								○					
		18UEDK4263	国語科指導法	2			小												○	



付表

(付表1) …小学校教諭一種免許状取得に関わる科目

基礎教育科目	免許法施行規則に定める科目区分等		科目名称	単位	形態	必修	免許等必修単位		第1年次			第2年次			第3年次			第4年次				
	科目	各科目に含めることが必要な事項					小学校		前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期		
							小	2														
基礎教育科目	66条の6に定める科目	日本国憲法	日本国憲法	2	講義		小	2	○													
		体育	体育Ⅰ(講義)	1	講義		小	2	○													
		外国語コミュニケーション	外国語コミュニケーションⅠ	1	演習		小	2			○											
			外国語コミュニケーションⅡ	1	演習		小	2				○										
		情報機器の操作	教育とICT	2	演習	必	小	2	○													
専門教育科目	教科に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	子どもと文学	1	演習		*	(小)の中から8単位以上				○										
			教科国語	1	講義		(小)			○												
			教科社会	1	講義		(小)				○											
			世界の子どもたち	1	演習		*							○								
			教科算数	1	講義		(小)				○											
			子どもと数学	1	演習		*								○							
			教科理科Ⅰ	1	演習		(小)							○			(○)					
			教科理科Ⅱ	1	演習		(小)								○					(○)		
			理科教育の実践研究	1	演習		*										○					
			教科生活	1	講義		(小)					○										
			教科音楽	1	演習		(小)									○						
			指導音楽実践	1	演習		*														○	
			教科器楽基礎	1	演習		(小)					○										
			伴奏法と弾き歌い	1	演習		*								○							
			教科図画工作	1	演習		(小)					○										
			感性を育む造形表現の展開	1	演習		*									○						
			教科家庭	1	演習		(小)					○										
			調理と裁縫の生活スキル	1	演習		*									○						
			教科体育	1	演習		(小)									○						
			身体表現	1	演習		*										○					
体育・スポーツ演習	1	演習		*													○					
子どもの安全と保健	1	演習		*														○				
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び職員の役割 教職の職務内容(研修、進級及び身分保障等を含む) 進級選抜に関する各種の機会の提供等	教職への道	2	講義		小	2	○													
			教育原論	2	講義		小	2	○													
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育思想の歴史	2	講義		*	2				○										
			教育哲学	2	講義		*	2					○									
			教育心理学	2	講義		小	2		○												
	教育の基礎理論に関する科目	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	保育の心理学Ⅰ	2	講義		*	2	○													
			教育行政学	2	講義		小	2		○												
			教育社会学	2	講義		*	2					○									
	教育課程及び指導法に関する科目	各教科の指導法	教育課程の意義及び編成の方法 特別活動の指導法	教育課程総論(小)	2	講義		小	24				○			(○)						
				国語科指導法	2	講義		小	24							○			(○)			
				社会科指導法	2	講義		小	24								○			(○)		
				算数科指導法	2	講義		小	24									○			(○)	
				理科指導法	2	講義		小	24									○			(○)	
				生活科指導法	2	講義		小	24									○			(○)	
				音楽科指導法	2	講義		小	24									○			(○)	
図画工作科指導法				2	講義		小	24										○		(○)		
家庭科指導法				2	講義		小	24										○		(○)		
体育科指導法				2	講義		小	24										○		(○)		
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2	講義		小	24						○										
	道徳教育の理論と実践	2	講義		小	24						○										

免許法施行規則に定める科目区分等		科目名称	単位	形態	必修	免許等必修単位		第1年次			第2年次			第3年次			第4年次				
科目	各科目に含めることが必要な事項					小学校	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期			
教職に関する科目	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導	2	講義	小	4								○	(○)					
		進路指導の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	演習	小										○					
	教育実習	(事前事後指導1単位を含む)	教育実習 I (小)	4	外	(小)	4									○					
			教育実習 I (幼)	4	外	(小)										○					
			教育実習 II (小)	2	外	*													○		
			教育実習指導 I (小)	1	演習	(小)									○	○					
	教職実践演習		教育実習指導 II (小)	1	演習	(小)	1										○	○			
			教職実践演習 (小) A	1	演習	(小)		2										○	○		
			教職実践演習 (小) B	1	演習	(小)													○	○	
			保育・教職実践演習 (幼)	2	演習	(小)														◎	
			人権教育と福祉の研究	2	講義	*															
			障害児の発達教育論	2	講義	*					○										
	国際教育論	2	講義	*					○												
	専門教育科目	教科又は教職に関する科目	特別活動論	2	講義	*								○	○						
総合学習論			2	講義	*								○	○							
外国語活動の指導スキル			1	演習	*										○						
外国語活動指導法			2	講義	小								○								
教育プログラミング			2	演習	*													○			
教育学への招待			2	講義	*									○							
教育調査法			1	演習	*										○						
子ども理解と教育			2	講義	*										○						
学級担任論 (小)			2	講義	*										○						
教科指導演習			1	演習	*													○			
通常学級での個別支援			2	講義	*											○					

・33・34頁「小学校教諭一種免許状取得について」を参照  
 # MFWI留学生対象の集中講義  
 (○) 副免許として小学校教諭一種免許状を取得する場合は、(○)で開講される。

(付表2) …幼稚園教諭一種免許状取得に関わる科目

免許法施行規則に定める科目区分等		科目名称	単位	形態	必修	免許等必修単位		第1年次			第2年次			第3年次			第4年次			
科目	各科目に含めることが必要な事項					幼稚園	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期		
基礎教育科目	66条の6に定める科目	日本国憲法	2	講義	幼	2	○													
	体育	体育 I (講義)	1	講義	幼	2	○													
		体育 II (実技)	1	実技	幼			○												
	外国語コミュニケーション	外国語コミュニケーション I	1	演習	幼	2					○									
外国語コミュニケーション II		1	演習	幼							○									
専門教育科目	教科に関する科目	教育とICT	2	演習	必	幼	2	○												
		国語	子どもと文学	1	演習	*	(幼)の中から6単位以上						○	○						
			教科国語	1	講義	(幼)			○											
		算数	教科算数	1	講義	(幼)			○											
			子どもと数学	1	演習	*									○	○				
		生活	教科生活	1	講義	(幼)			○											
			教科音楽	1	演習	(幼)									○					
		音楽	指導音楽実践	1	演習	*														○
			教科音楽基礎	1	演習	(幼)			○											
			伴奏法と弾き歌い	1	演習	*									○	○				
			アンサンブルと弾き歌い	1	演習	*										○	○			
		図画工作	教科図画工作	1	演習	(幼)			○											
			感性を育む造形表現の展開	1	演習	*											○			
			教科体育	1	演習	(幼)										○				
身体表現	1		演習	*											○					
体育	運動遊び演習	1	演習	*													○			
	子どもの安全と保健	1	演習	*										○						
	教職の意義等に関する科目	教職への道	2	講義	*	2	○													
		保育者論	2	講義	幼		○													
教育の基礎理論に関する科目	教育原論	2	講義	幼	2	○														
	保育原理	2	講義	*									○							
	教育思想の歴史	2	講義	*									○							
	教育哲学	2	講義	*									○	○						

免許法施行規則に定める科目区分等		科目名称	単位	形態	必修	免許等必修単位 幼稚園	第1年次			第2年次			第3年次			第4年次			
科目	各科目に含めることが必要な事項						前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	
専門教育科目	教育の基礎理論に関する科目	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	教育心理学	2	講義	幼		○											
			保育の心理学Ⅰ	2	講義	*		○											
		教育に関する社会的、制度的または経営的事項	教育行政学	2	講義	幼		○											
			教育社会学	2	講義	*				○									
	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	保育・教育課程総論	2	講義	幼				○		(○)							
			保育内容総論	2	演習	幼		○											
		保育内容の指導法	保育指導法(遊びと指導)	2	講義	幼				○							(○)		
			保育指導法(保育と環境)	2	講義	幼						○					(○)		
			保育内容・健康	2	演習	幼						○							
			保育内容・環境	2	演習	幼						○	(○)						
			保育内容・人間関係	2	演習	幼						○	(○)						
			保育内容・言葉	2	演習	幼					○								
			保育内容・表現Ⅰ	1	演習	幼					○								
			保育内容・表現Ⅱ	1	演習	幼						○	○	#					
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法論	2	講義	幼					○									
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	演習	幼								○					
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法																	
	教育実習		教育実習Ⅰ（小）	4	外	(幼)										○			
			教育実習Ⅰ（幼）	4	外	(幼)										○			
			教育実習Ⅱ（幼）	2	外	*												○	
(事前事後指導1単位を含む)		教育実習指導Ⅰ(幼)	1	演習	(幼)								○	○					
	教育実習指導Ⅱ(幼)	1	演習	(幼)											○	○			
教職実践演習		教職実践演習(小)A	1	演習	(幼)											○			
		教職実践演習(小)B	1	演習	(幼)												○		
		保育・教職実践演習(幼)	2	演習	(幼)												◎		
教科又は教職に関する科目		人権教育と福祉の研究	2	講義	*						○								
		障害児の発達教育論	2	講義	*		○												
		国際教育論	2	講義	*			○											
		総合学習論	2	講義	*					○									
		教育プログラミング	2	演習	*												○		
		障害児保育	2	演習	*									○					
		教育学への招待	2	講義	*			○											
		教育調査法	1	演習	*									○					
		子ども理解と幼児教育	2	講義	*							○							
		学級担任論(幼)	2	講義	*								○						
		幼児教育実践演習	1	演習	*									○					
		通常学級での個別支援	2	講義	*									○					

・34頁「幼稚園教諭一種免許状取得について」を参照

# MFWI留学生対象の集中講義

(○) 副免許として幼稚園教諭一種免許状を取得する場合は、(○)で開講される。

(付表3) …特別支援学校教諭一種免許状取得に関わる科目

免許法施行規則に定める科目区分		科目名称	単位	形態	必修	免許等必修単位 特別支援学校	第1年次			第2年次			第3年次			第4年次		
特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目						心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期
専門教育科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目	障害児福祉論	2	講義						○								
		特別支援教職論	2	講義	特	2						○						
	特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害者の心理・生理・病理	2	講義	特	2				○							
		肢体不自由者の心理・生理・病理	2	講義	特	2						○						
		病弱者の心理・生理・病理	2	講義	特	2					○							
	特別支援教育に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害教育	2	講義	特	2						○					
			障害児指導法	2	講義	特	2						○					
		肢体不自由教育	2	講義	特	2						○						
		病弱教育	2	講義	特	2						○						

免許法施行規則に定める科目区分			科目名称	単位	形態	必修	免許等必修単位		第1年次			第2年次			第3年次			第4年次				
							特別支援学校	特別支援学校	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期	前期	後期	特別学期		
専門教育科目	特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害教育総論	2	講義	(特)	2													○		
			肢体不自由教育総論	2	講義	(特)															○	
			病弱教育総論	2	講義	(特)																○
	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	視覚障害教育総論	2	講義	特	2							○								
			聴覚障害教育総論	2	講義	特	2									○						
			重複障害等教育総論	2	講義	(特)	2														○	
			LD等教育総論	2	講義	(特)															○	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習		特別支援学校教育実習指導	1	演習	特	1													○	(○)	
			特別支援学校教育実習	2	外	特	2													○	(○)	

- ・「重複障害等教育総論」については、重複障害のほか、言語障害、情緒障害（自閉症を含む）、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）等に関する内容を含むものとする。
- ・「LD等教育総論」については、学習障害（LD）のほか、重複障害、言語障害、情緒障害（自閉症を含む）、注意欠陥多動性障害（ADHD）等に関する内容を含むものとする。

(付表4) …平成22年厚生労働省告示第278号に定める保育士教養科目に対応する本学の開設科目

告示による教科目				本学の開設状況		
系列	教科目	授業形態	単位数 <sup>(注1)</sup>	授業科目	単位数	時間数
教養科目	外国語・体育以外の科目	不問	6以上	日本国憲法	2	30
				障害児の発達教育論	2	30
				外国語活動指導法	2	30
				教育プログラミング	2	30
				教育とICT	2	30
	外国語	演習	2以上	英語 I	2	60
				英語 II	2	60
				外国語コミュニケーション I	1	30
				外国語コミュニケーション II	1	30
	体育	講義 実技	1 1	体育 I (講義)	1	30
体育 II (実技)				1	30	

(付表5) …平成22年厚生労働省告示第278号に定める保育士必修科目に対応する本学の開設科目

告示による教科目				本学の開設状況		
系列	教科目	授業形態	単位数 <sup>(注1)</sup>	授業科目	単位数	時間数
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	2	30
	教育原理	講義	2	教育原論	2	30
				教育行政学	2	30
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	2	30
	社会福祉	講義	2	社会福祉	2	30
	相談援助 <sup>◇</sup>	演習	1	相談援助・保育相談支援	2	30
	社会的養護	講義	2	社会的養護	2	30
保育者論	講義	2	保育者論	2	30	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学 I	講義	2	保育の心理学 I	2	30
	保育の心理学 II	演習	1	保育の心理学 II	1	30
	子どもの保健 I	講義	4	子どもの保健 I A	2	30
				子どもの保健 I B	2	30
	子どもの保健 II	演習	1	子どもの保健 II	1	30
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	2	30
家庭支援論	講義	2	家庭支援論	2	30	

告示による教科目				本学の開設状況		
系 列	教 科 目	授業形態	単位数 <sup>(注1)</sup>	授 業 科 目	単位数	時間数
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	保育・教育課程総論	2	30
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	2	30
	保育内容演習	演習	5	保育内容・健康	2	30
				保育内容・環境	2	30
				保育内容・人間関係	2	30
				保育内容・言葉	2	30
	保育内容・表現Ⅰ	1	30			
	乳児保育	演習	2	乳児保育	2	30
	障害児保育	演習	2	障害児保育	2	30
社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	1	30	
保育相談支援 <sup>◇</sup>	演習	1	相談援助・保育相談支援	2	30	
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	教科器楽基礎	1	30
				伴奏法と弾き歌い	1	30
				教科図画工作	1	30
				ことばと表現	1	30
				教科体育	1	30
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ(保育所)	2	80
				保育実習Ⅰ(施設)	2	80
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA	1	30
				保育実習指導ⅠB	1	30
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習(幼)	2	30

◇「相談援助」と「保育相談支援」については、本学では併合科目「相談援助・保育相談支援」として開設する。

(付表6) …平成22年厚生労働省告示第278号に定める保育士選択必修科目に対応する本学の開設科目

告示による教科目				本学の開設状況		
系 列	教 科 目	授業形態	単位数 <sup>(注1)</sup>	授 業 科 目	単位数	時間数
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15以上	地域福祉論	2	30
保育の対象の理解に関する科目				人権教育と福祉の研究	2	30
				施設経営論	2	30
保育の内容・方法に関する科目				家庭支援論演習	1	30
保育の表現技術				保育内容・表現Ⅱ	1	30
				乳児保育実践	1	30
				教科音楽	1	30
				アンサンブルと弾き歌い	1	30
				感性を育む造形表現の展開	1	30
				身体表現	1	30
	保育指導法(遊びと指導)	2	30			
保育指導法(保育と環境)	2	30				
保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ	2	80
	保育実習Ⅲ			2	80	
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	1	30
	保育実習指導Ⅲ			1	30	

(付表7) …実習について

実習種別	実習施設	単位数	実習日数	時間数 <sup>(注2)</sup>
保育実習Ⅰ	保育所	2	2週間	80
	施設	2	10日間	80
保育実習Ⅱ	保育所	2	2週間	80
保育実習Ⅲ	施設	2	2週間	80

(注1) 法的に定められた開設すべき単位数を記載している。

(注2) 保育所や施設で行う学外実習の時間数は、実労働時間で設定される。

4 各学期の到達目標

履修年次		各段階における到達目標	
年次	時期	小学校教育コース	幼児教育・保育コース
1年次	前期	(1)基礎的な教養、及び英語、情報スキル、レポート作成や発表の技法など、学士にとって必要な知識・技能を身につける。 (2)教育・保育に関する入門的な内容を理解する。 (3)教員・保育士への動機づけを高める。	(1)基礎的な教養、及び英語、情報スキル、レポート作成や発表の技法など、学士にとって必要な知識・技能を身につける。 (2)教育・保育に関する入門的な内容の理解を深める。 (3)教員・保育士への進路について考え、コースを選択する。
	後期	(1)基礎的な教養、及び英語、情報スキル、レポート作成や発表の技法など、学士にとって必要な知識・技能を身につける。 (2)教育・保育に関する入門的な内容の理解を深める。 (3)教員・保育士への進路について考え、コースを選択する。	(1)基礎的な教養、及び英語、情報スキル、レポート作成や発表の技法など、学士にとって必要な知識・技能を身につける。 (2)教育・保育に関する入門的な内容の理解を深める。 (3)教員・保育士への進路について考え、コースを選択する。
2年次	前期	(1)小学校教員として身につけておかなければならない教科に関する知識及び教職に関する知識・理解を得る。 (2)発展プログラムを主体的に履修することにより、自分の強みを身につける。 (3)修得した知識・技能を応用し、自ら課題に取り組むことを通して、論理的に考え、主体的に学ぶ力を身につける。	(1)幼稚園教員として身につけておかなければならない教科に関する知識及び教職に関する知識・理解を得る。 (2)発展プログラムを主体的に履修することにより、自分の強みを身につける。 (3)修得した知識・技能を応用し、自ら課題に取り組むことを通して、論理的に考え、主体的に学ぶ力を身につける。
	後期	(1)小学校教員として身につけておかなければならない教科に関する知識及び教職に関する知識・理解を深める。 (2)発展プログラムを主体的に履修することにより、自分の強みを身につける。 (3)修得した知識・技能を応用し、自ら課題に取り組むことを通して、論理的に考え、主体的に学ぶ力を身につけるとともに、実践への関心を高める。	(1)幼稚園教員として身につけておかなければならない教科に関する知識及び教職に関する知識・理解を深める。 (2)発展プログラムを主体的に履修することにより、自分の強みを身につける。 (3)修得した知識・技能を応用し、自ら課題に取り組むことを通して、論理的に考え、主体的に学ぶ力を身につけるとともに、実践への関心を高める。
3年次	前期	(1)小学校教員として身につけておかなければならない教科に関する知識及び教職に関する知識を深め、総合的かつ理論的に理解する。 (2)各教科の指導法や実習指導の科目での学びを中心として、実践的指導力を身につける。 (3)発展プログラムを主体的に履修することにより、自分の強みを実践的指導力につなげる。 (4)教育演習での学びを通して、研究への関心を高め、自らの研究課題を見つける。 (5)副免許（幼・特支）科目に関する知識を身につける。	(1)幼稚園教員として身につけておかなければならない教科に関する知識及び教職に関する知識を深め、総合的かつ理論的に理解する。 (2)保育内容の科目や実習指導の科目での学びを中心として、実践的指導力を身につける。 (3)発展プログラムを主体的に履修することにより、自分の強みを実践的指導力につなげる。 (4)教育演習での学びを通して、研究への関心を高め、自らの研究課題を見つける。 (5)副免許・資格（保・小）科目に関する知識を身につけ、保育士課程に関しては、保育実習によって実践的理解を深める。
	後期	(1)小学校教育実習における学びを通して、実践的指導力を身につけ、理論的な知識と結びつける。 (2)発展プログラムを主体的に履修することにより、自分の強みを実践的指導力につなげ、さらに発展させる。 (3)教育演習での学びを通して、研究への関心をさらに高め、自らの研究課題に取り組む。 (4)小学校教育についての理論的・実践的な理解を活かしながら副免許（幼・特支）科目に関する知識・理解を深める。	(1)幼稚園教育実習における学びを通して、実践的指導力を身につけ、理論的な知識と結びつける。 (2)発展プログラムを主体的に履修することにより、自分の強みを実践的指導力につなげ、さらに発展させる。 (3)教育演習での学びを通して、研究への関心をさらに高め、自らの研究課題に取り組む。 (4)幼児教育についての理論的・実践的な理解を活かしながら副免許（保・小）科目に関する知識・理解を深める。

履修年次		各段階における到達目標	
年次	時期	小学校教育コース	幼児教育・保育コース
4 年 次	前期	(1)前年度の小学校教育実習における学びをもとに、さらに実践的指導力を身につける。 (2)教育実習で見いだした自らの課題について、発展プログラムを主体的に履修することによって、実践的指導力を高める。 (3)卒業研究において、教育に関する自らの研究を進め、問題解決能力を高める。 (4)教職実践演習を通して、これまでの学びを振り返り、自らの課題に取り組む。 (5)小学校教育についての理論的・実践的な理解を活かしながら副免許（幼・特支）に関する知識・理解を深める。	(1)前年度の幼稚園教育実習における学びをもとに、さらに実践的指導力を身につける。保育士課程に関しては、保育実習を通して、幼稚園との相違を含めて理解を深め、実践的指導力を高める。 (2)教育実習で見いだした自らの課題について、発展プログラムを主体的に履修することによって、実践的指導力を高める。 (3)卒業研究において、幼児教育・保育に関する自らの研究を進め、問題解決能力を高める。 (4)幼稚園教育についての理論的・実践的な理解を活かしながら副免許・資格（保・小）に関する知識・理解を深める。
	後期	(1)教科及び教職に関する内容をより広く学び、実践的指導力を高める。 (2)副免許（幼・特支）の教育実習を通して、実践的指導力を高める。（幼実習は選択） (3)卒業研究において、教育に関する自らの研究を進め、研究を仕上げ、発表する。 (4)教職実践演習を通して、さらに自らの課題に取り組む。	(1)教科及び教職に関する内容をより広く学び、実践的指導力を高める。 (2)選択科目である副免許（小）の教育実習を通して、実践的指導力を高める。 (3)卒業研究において、教育に関する自らの研究を進め、研究を仕上げ、発表する。 (4)教職実践演習を通して、これまでの学びを振り返り、自らの課題に取り組む。